



国際理解と多様性

11月の最終週は、国際色豊かな行事やできごとがありました。大潟中学校ではこれまで、韓国やデンマーク、国際教養大の方々との交流を通して国際理解や多様性を尊重する心の育成を図ってきました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現在は外国の中学校との交流活動は行っていませんが、他国の文化や多様性について考える機会となりました。

同窓会講話会 「後輩たちへの贈り物 ～私の追いつけた夢～」

11月28日(火)、多目的ホールにて、本校同窓会の企画による講話会が行われました。今年度の講師は、第22期生の芳賀俊成さんで、「未来への一歩 ～国境を越えて広がる可能性、異文化理解と言葉の重要性～」という演題でお話いただきました。大学時代にバックパッカーとしてヨーロッパを旅行中、現地の人に言われた衝撃の一言に奮起し、アメリカに留学したこと、日本の企業に就職するもドイツに赴任したこと、奥様の母国である台湾に移住して現地の大学や高校で日本語の教員として働いたことなど、波瀾万丈の人生を楽しくお話しくださしました。芳賀さんの、まずはやってみようとする行動力や、アメリカ留学中に「死に物狂いで頑張ったと自信をもって言える」くらい努力したという言葉に、生徒たちは大きな衝撃を受け、自分に当てはめて考えていたようです。「自分に負けない」「恐れずに一歩を踏み出す」「異なる背景をもつ人々を尊重し、偏見を減らし、多様性を受け入れることが大事」など、実際に他国での生活を経験した芳賀さんからの言葉は、これからの人生の糧になったことと思います。



ゴスペル教室 ～ゴスペルミュージックを歌おう～

11月29日(水)、多目的ホールにて、アメリカのゴスペル歌手であるレイ・シドニーさんを迎えて、ゴスペル教室が行われました。陽気なレイさんの人柄と、すばらしい歌声に魅せられた生徒たちは、一緒に歌ったり踊ったりと、ノリノリでゴスペルを体験し、楽しい時間を過ごすことができました。ゴスペルは福音音楽と訳されますが、その語源は、god(good:良い)+spel(伝える)で、「良い知らせ(ニュース)」ということでした。ゴスペル誕生の背景には、17世紀後半以降、アフリカからアメリカに連れて行かれ、強制的に労働させられていた人たちの思いがあるそうです。そういった歴史について調べてみることも、国際理解や多様性の理解につながるのではないのでしょうか。



台湾の中学校教員、葉人華先生来校

11月30日(木)、台湾で国語の教員をしている葉人華先生が来校し、国語の指導方法や日本の給食などについて研修しました。3校時は京谷先生と国語指導について情報交換し、4校時は2年生の国語の授業を参観し、漢詩を中国語で範読していただきました。また、通訳として来校した芳賀俊成さんらとともに2年生の教室で一緒に給食を試食しました。葉先生は、本校の校舎がきれいなことや、教室掲示が充実していること、給食がおいしいことなどをお話していました。

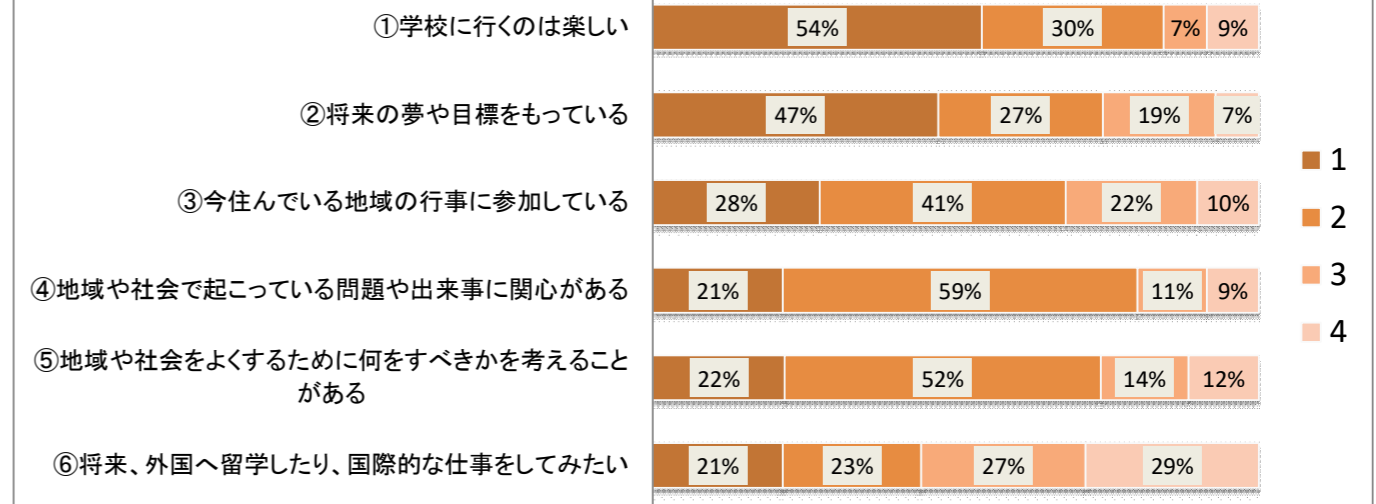


令和5年度 生徒アンケート(全学年) 集計結果

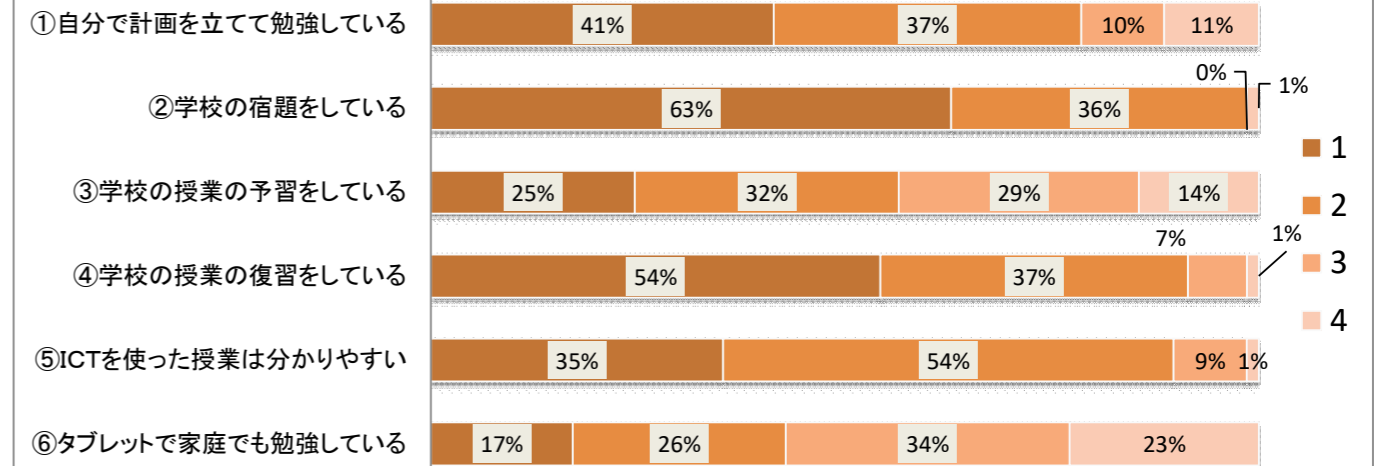
11月24日に実施した「令和5年度生徒アンケート」の結果がまとまりました。傾向としては昨年度とあまり変わりませんが、「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事をしてみたい」という設問に肯定的な回答をした割合が44%と、低い傾向にあります。また、「ICTを使った授業は分かりやすい」は昨年度の80%から89%に増加したものの、「タブレットで家庭でも勉強している」は昨年度の57%から43%と低くなっています。家庭学習については、生徒と話し合いながら指導していきたいと思えます。

1:あてはまる 2:どちらかといえば、あてはまる 3:どちらかといえば、あてはまらない 4:あてはまらない

ふるさと・キャリア教育



学習面



1:あてはまる 2:50/50(決まっていない) 3:あてはまらない

将来設計

